

第3回岡山市場未来会議
会議録要旨

日時：令和7年6月24日（金）13:30～15:00

場所：岡山市勤労者福祉センター 4階 大会議室

出席者：

【委員】

学識経験者	3名
卸売業者	5名
仲卸業者	4名
場内関係者	1名
出荷団体	2名
小売事業者	1名
金融事業者	1名
消費者	1名
岡山市	1名

【事務局】

岡山市 市場事業部

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

会議録要旨：

(1) 「将来構想（案）」について

■ 全体コンセプトについて

発言者 A 全体コンセプトについて、市民・市場関係者にとってワクワクするものである必要がある。市場への期待が高まったり、市場関係者のやる気が高まったりするものが良い。もう少しキーワードを追加したり減らしたりしても良いかもしれない。オール岡山市場というキーワードは良い。

発言者 A 岡山市場らしさ＝卸売市場らしさ＋岡山らしさであると認識している。卸売市場らしさは、せりがある、新鮮な食品が手に入るなどのイメージはあるが、本当の役割や機能として、卸売市場の存在価値は食の安定的な供給や安定的な価格形成を実現することであることを打ち出すべきではないか。

発言者 A コンパクト化したとしても、コアになる機能は、市民の豊かな食生活を支えることである。新鮮、安全性、安定価格で提供をする、という卸売市場が果たしてきた役割は歴史的に見ても大変大きい。

発言者 A 政府が価格統制することなくとも、安定的な価格形成を実現してきたのが卸売市場ではないか。今後も市民県民の生活のために果たす役割として卸売市場らしさに加えられるとよい。

発言者 B コンセプトの「岡山市場らしさ」について、これは目的ではなく後からついてくるものではないか。輸出を強化するため輸出業者を取り込んでいたり、加工会社を入れて市場の一部全体を冷蔵庫にし、加工需要に対応したりしている他市場の例がある。岡山でも岡山市民に合わせた豊かな食生活を支えるための需要と供給を満たすことが一番重要であり、そこが「岡山市場らしさ」に繋がるのではないか。

■ 機能整備について

発言者 C まずは冷凍・冷蔵庫、加工場、捌き場、物流配送センターの機能整備が必要である。次に余剰地の活用、商業・飲食・観光を一体化した複合施設として地域住民や観光客の来場を促す。岡山市に家賃収入が見込めれば、卸売市場としての使用料はある程度抑えられるのではないか。

■ 卸売市場ならではの教育機能・情報発信について

発言者 D 花の需要は基本的に景気動向に左右される部分ではあるが、カムカム市場などの取組により、市民に花に親しんでもらう機会を創出している。必需品ではないが人々の生活を豊かにするものと再認識している。

■ まちづくり・地域振興への貢献について

発言者 E まちづくりの視点では、コンパクト化に伴う余剰地の活用も含め、市場がまちに対してどれだけ開かれたものになるのか、どのような相乗効果を生み出すのか等についてさらなる検討が必要ではないか。

発言者 A 市民にとってのまちづくり拠点について、賑わい部分やまちづくり部分は市場整備・再編と一緒に行うか、別の事業として行うか。その位置づけの整理が必要である。集客施設に費用がかかると、市場整備事業費も上がる。市場利用者の経済負担にならない仕組みを考えたい。

発言者 C 市場のあり方は市場単体で考えるものではない。旅行代理店と連携したまちづくりや、市内の再開発とセットで検討を進めている他市場の例がある。市場単体ではなく、行政や民間事業者が関わりながら、まちづくりの視点で市場のあり方を検討しているような事例や、考え方のヒントがあると良い。

■ 産地・販売先との連携による地場産品の集荷・販売力強化について

発言者 F 「消費者のニーズを踏まえた産地開発や、新たな産地に営業を行い、集荷先を広げていく役割」が期待されているが、実際に青果・水産の荷受けでできる可能性、余力、実態はあるのか。ない場合、どうすれば良いのか検討すべきである。

発言者 G 価格転嫁について、産地のコストを踏まえて打ち出すこともさることながら、産地の段階で経費を下げる仕組みや、新商品の開発などの取組も必要ではないか。

発言者 H 前回出荷団体からは、市場を価格形成機能と冷蔵機能として捉えているという話があったが、それ以外の価値もあるはずである。市場と産地を切り分けることなく、一体となって岡山の食を考えていくべきである。

発言者 I 今後 15 年 20 年を見据えると、水産物については漁獲量が増える要素がない。魚卵を食す文化や、産卵場所の無さ、漁業者の減少などが背景にある。

発言者 D 県内・近隣県からの集荷力の強化は、地元の運送業者とも協力して取り組んでいるが、遠方の産地は生産量が少ないこともあり、地方の市場への出荷はコストがかかることから大手市場への出荷が中心となってきた。荷を集めるためには産地からではなく大手市場から仕入れざるを得ないような状況であり、このままでは大手市場の物流拠点となる可能性が高い。

発言者 B 産地では生産振興のプロジェクトの中で、まずは消費者第一で振興する品目を特定している。社会潮流の変化の中で、ニーズは常に変化している。朝、昼、夜で変化するニーズをいち早く把握し対応しているスーパーなどは盛況である。岡山市場においても、消費者第一で、岡山市民のニーズを把握して商品を提供すべきではないか。

■ 場内事業者の組織体系の再編・連携体制の構築について

発言者 F ホールディングス化などは、果たして実際どれほどの効果があるのか。効果が曖昧な状態で検討を進めるには懸念がある。今後の検討の過程では効果の見通し等を提示されると良い。

発言者 C 市場のホールディングス化について、卸売業者、仲卸業者の独立した機能を活かすためには有効ではないか。それぞれの役割の重複や競合が発生しにくくなり棲み分けもできる。持株会社のホールディングスの傘下にそれぞれ独立した事業を子会社制にすることをイメージしている。外部からの資本参加や人材登用も期待できる。新たな経営チャンスが生まれるのではないか。

■ 働きやすい環境づくりについて

発言者 G 最近は徐々に若い人達の間にも当事者意識が生まれ、個別ではあるものの、市場のあるべき姿について話し合いが行われる機会が増えているように感じる。市場と言えば朝が早いというイメージ。少しずつ実態は変わってきているがイメージは十分に払拭できていない。次世代を担う人達からも意見を出してほしい。

発言者 I 若い人の働きやすさの観点では、「仕事のメリハリ」が重要ととらえている。働く時間は懸命に働き、休みのタイミングはしっかり休むということが大切だが、産地からの問い合わせがあれば対応せざるを得ない状況にある。夜中の業務であることは理解して入社しても、入社後に障壁となる。とはいえ、産地、市場だけで解決できる問題ではないため 15 年、20 年先のあり方はイメージしづらい。まずは建物の美化・老朽化対策を進めるべきではないか。

発言者 C 市場の人手不足が懸念される。早朝勤務は若い人に敬遠される。休日増や労働時間短縮などの改革は急務である。今後女性や外国人、中途採用など、担い手確保のための策を検討している。

発言者 A 若い人達がどの環境で働きたいか。今は仕事の内容だけでなく環境も重要である。日ごろ学生たちの就職活動を見ていると、単に休みが多だけでなく、衛生環境や組織風土（ハラスメント等）なども気にしている印象である。

以上